

いちのへ SDGs mirai カフェ Vol.4

～やりたいことを形にしよう！第二弾深掘り会議～



開催日時：令和5年10月29日（日）13:30～16:30

会場：一戸町コミュニティセンター会議室

主催：一戸町

町への期待や想い、一戸の未来について気軽に意見交換し、どんな町に暮らしたいか、やりたいことは何かを話し合うタウンミーティング「いちのへ SDGs mirai カフェ」の第4回が10月29日に開催されました。今回は7名の方に参加いただき、第3回の深掘り会議から引き続き、一戸町の「場」について、ありたい姿を実現するために何が必要か、そしてどんなことができるかについて話し合いました。

①テーマについて・前回の振り返り

「場」とは、施設や設備のハード面のことだけでなく、「何かが行われるところ」や、何か目的を持っていてもなくても、人が集まっている状況のことを指します。「いちのへ SDGs mirai カフェ」では、これまでの話し合いから、3つの「場」に整理し、深掘りしました。

A 働く場・・・就職先、転職先、事業者など

B 楽しむ場・・・宿泊、飲食、文化教室、映画館、イベントなど

C 集まる場・・・ユースセンター、カフェ、イベントなど

前回（第3回）は、一戸町のそれぞれの「場」がどんな未来になっていたらよいかをそれぞれ考えました。

どんな場？	ありたい姿
A.働く場	大人が 生き生き ワクワク 楽しく おしゃれに かつこうよく 笑顔で ありがとうがあふれている 職場がある地域になっている
B.楽しむ場	一人一人が心と身体に余裕（ゆとり）を持って毎日を過ごす！
C.集まる場	町内外関わらず 他世代の人が こたつに入りながら働いたり、勉強したり、おしゃべりして、人と人が繋がれる場

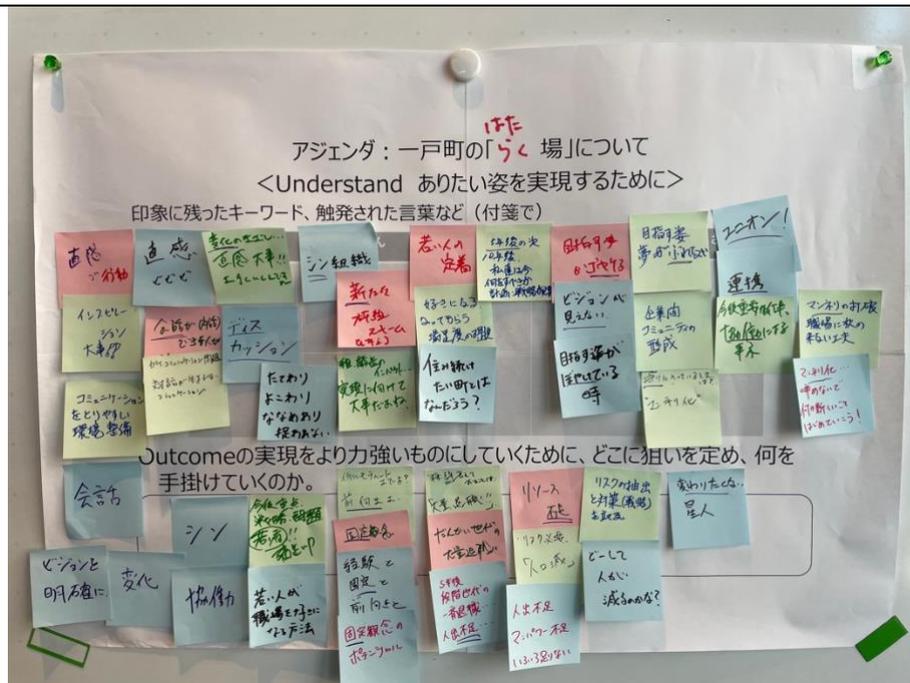
今回はこのありたい姿を実現するために何が必要か、そして具体的に何ができるかを考えます。

今回は「働く場」「集まる場」を選択し、2 チームに分かれて話し合いを行いました。

②ありたい姿を実現するために必要な・大切なものは？

まず、ありたい姿を実現するために何が必要か、大切にすべきことは何か、それぞれのチームで話し合いをしました。

どんな場？	ありたい姿を実現するために 必要な・大切なものは？
A.働く場	<p>【ありたい姿】大人が 生き生き ワクワク 楽しく おしゃれに かつこうよく 笑顔で ありがとうがあふれている 職場がある地域になっている</p> 

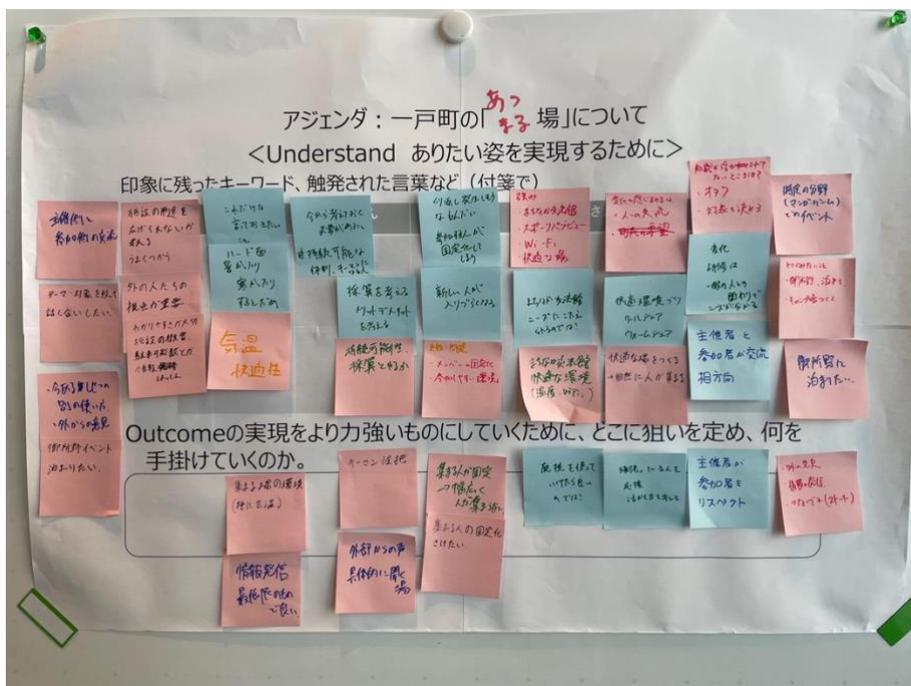


キーワード（付箋より）

直感（ビビビ）、行動、インスピレーション大事！、コミュニケーションを取りやすい環境整備、会話、ビジョンを明確に、変化、会話ができる人が必要、コミュニケーション問題、対話が生まれえない、変化の兆しの直感だ大事！、ディスカッション、たてわり・よこわり・ななめわりに捉われない、今後重点戦略・課題：若い者！！、適正 UP！、若い人が職場を好きになる方法、シノ組織、協働、新たな枠組、スキームを考える、組織・構造のインパクト・・・実現に向けて大事だよね、何にモチベーションを得ている？→前向きさ、固定観念、経験と固定と前向きと、固定観念のポテンシャル、若い人の定着、好きになる・好きになってもらう・満足度の提供、住み続けたい町とはなんだろう？、5年後考えておくことは？→団塊世代の大量退職、人手不足、5年度の次、10年後、私達は今何をすべきか？計画、戦略が必要、目指すことがぼやけている時、ビジョンが見えない、リソース不足、「人口減」のリスク、マンパワー不足、いろいろ足りない、リスクの抽出と対策（戦略）を立てる、どーして人が減るのかな？、目指す姿→夢がぶれない、企業間コミュニティの形成、守りに入っている時は？→マンネリ化、変わりたくない星人、ユニオン！、連携、今後重要な仕事は協働による事業、マンネリの打破→職場にあきのこない工夫、諦めないで何か新しいことを始めていこう！

C.集まる場

【ありたい姿】町内外関わらず 他世代の人が こたつに入りながら働いたり、勉強したり、おしゃべりして、人と人が繋がれる場



キーワード（付箋より）

主催者側と参加側の交流、テーマ・対象を絞って話し合いたい、今ある施設の別の使い方、外からの意見、御所野イベント・泊まりたい、施設の用途を広げられないか考える・うまく使う、外の人たちの視点が重要、わかりやすさが大切、施設の概要・駐車可能数とか情報発信、快適環境づくり（クールシェア・ウォームシェア）、快適な場を作ると自然に人が集まる、頑張っている人を応援、活かし方を考える、変化、研修は、一般の人との関わりでニーズが分かる、双方

	<p>向、主催者が参加者をリスペクト、特定の分野（マンガ・ゲーム）でのイベント、御所野に泊まる、キャンプ場つくる、つなげる（ストーリー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけは言っておきたいこと→ハード面。暑かったり寒かったりするとだめ、気温・快適性、集まる場の環境（特に気温）、情報発信・最低限のもので良い。 ・今から考えておく必要があること→持続可能な体制・キーマンになる人、採算を考える・メリットデメリットを考える、キーマン掌握、外部からの声を具体的に聞く場 ・繰り返し発生しそうな問題→参加する人が固定化してしまう、新しい人が入りづらくなる、参加しやすい環境、幅広く人が集まらない、固定化避けたい。 ・強みは？→まちなか交流館はニーズに応えられるのでは？快適な環境（温度・Wi-Fi）、 ・変化を感じる時は？→人との交流 ・知識が活かされていないところは？→オタク、対象を決める。
--	--

③具体的にどんなことができるか？

次は新しい質問カードを使って、「具体的にどんなことができるか」について話し合います。

どんな場？	ネクストアクション
A.働く場	<p>【ありたい姿】大人が 生き活き ワクワク 楽しく おしゃれに かつこうよく 笑顔で ありがとう があふれている 職場がある地域になっている</p> <p>【具体的にどんなことができる？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てこの原理となる要所は？→人手不足を解決するためには、“若者”の意見を！ ・1人1人が尊重されている実感に至れるように行ってみたいことは？→どうすると嬉しいか？何を大事にしているか？相手を知ることが始める。 ・モチベーション向上のために働きかけたいことは？→働く場を変える。※働きたい場所で働く、会いたい人に会える働き方。 ・理念・ビジョン・方向性への共感・共鳴を促すためには？→現役世代の声を拾っていききたい。（お酒とかの場では話せるけど・・・こういう場ではざっくばらんな話ができている） ・色々な人と対話して色々な価値観ががることに気づく、知る。 ・企業側も環境・社会・経済について語れるように。 ・キャリア教育＝自立。 ・小さい町だと社会人を見る機会がない。 ・地方版キザニア ・それぞれの個性が活かせて、活躍できる社会に。 <p>【6W2Hで考える】 プロジェクトテーマ名：中学生がつくるお仕事図鑑！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働のアイデアを学生に求める

- ・大学生が色々な企業に訪問（事例あり）
- ・地域と学生が連携。Ex 地図を作る→学生が地域を知るきっかけ作り
- ・マイプロをからめる
- ・普段想像できないような企業訪問
- ・働くことへのハードルを下げる

【本日の話し合いのまとめ】

・現状は？

働く場と職業の魅力が発信で来ていないので、町に定住に結びついていない

・ありたい姿は？

大人が 生き生き ワクワク 楽しく おしゃれに かつこうよく 笑顔で ありがとうがあふれている
職場がある地域になっている

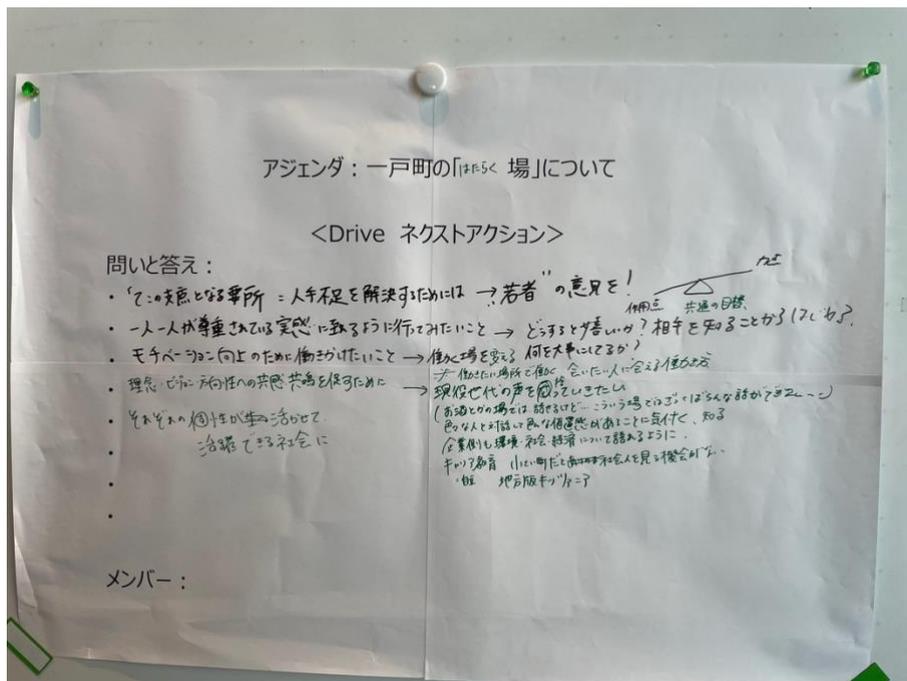
・ありたい姿を実現するために必要な・大切なものは？

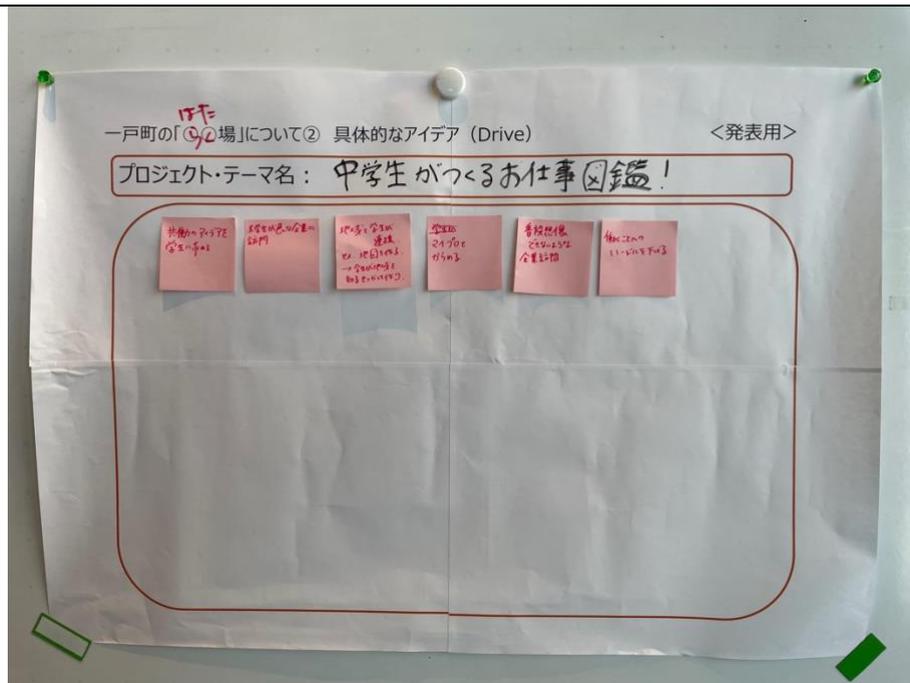
人

会話（コミュニケーション）

新スキーム（枠組）

変革





C.集まる場

【ありがたい姿】町内外関わらず 他世代の人が こたつに入りながら働いたり、勉強したり、おしゃべりして、人と人が繋がれる場

【具体的にどんなことができる？】

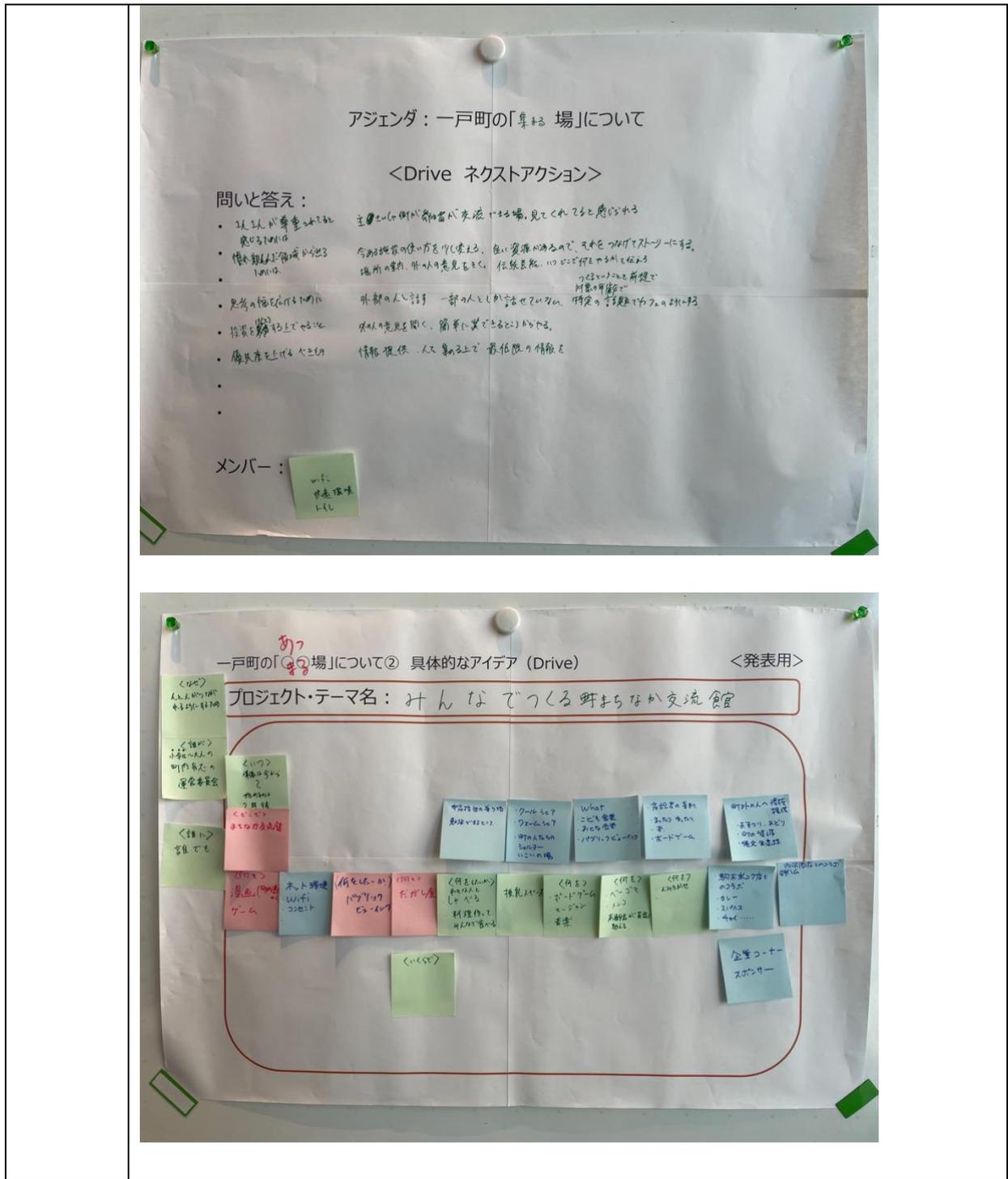
- ・1人1人が尊重されていると感じるためには？→主催者側が参加者と交流できる場。見てくれていると感じられる。
- ・慣れ親しんだ領域から出るためには？→今ある施設の使い方を少し変える。良い資源があるので、それをつなげてストーリーにする。場所の案内、外の人の意見を聞く。伝統芸能をいつどこで何をやるのかを伝える。
- ・つくるということを前提で、対象の年齢で、特定の話題でカフェのようにする。
- ・思考の幅を広げるために→外部の人と話す。一部の人としか話せていない。
- ・投資を検討することでやること→外の人の意見を聞く、簡単にできることからやる。
- ・優先度を上げるべきもの→情報提供。人を集める上で最低限の情報を。

【6W2Hで考える】

プロジェクトテーマ名：みんなでつくる町なか交流館

- ・<いつ when>
準備は今から～始めるのは2年後
- ・<なぜ Why>
人と人がつながれるようにするため
- ・<誰が Who>
小学生～大人有志の運営委員会
- ・<誰に Whom>
誰でも

	<ul style="list-style-type: none"> ・<どこで Where> まちなか交流館 ・<何を What> 漫画（町内書店から） ゲーム ネット環境・Wi-Fi・コンセント パブリック・ビューイング だがし屋 色々な人と喋る 料理を作ってみんなで食べる 授乳スペース ボードゲーム マーじゃん 音楽 中高生の集う場 勉強できる場所 クールシェア・ウォームシェア 町の人たちのシェルター いこいの場 こども食堂 おとな食堂 高齢者の集まり ゆったり・ゆったり 本 よみかせ ベーゴマ・メンコ 高齢者が若者に教える 駒木米穀店とのコラボ（カレー・スパイス・チャイ・・・） 内澤商店とのコラボ（岩手ハム） 企業コーナー スポンサー 町外の人への情報提供（おまつり・おどり、町の資源、縄文遺跡）
--	--



④振り返り

今回の深堀り会議では、両チーム共に「具体的にどんなことができるか」まで、話し合いを行いました。「ありたい姿」の実現に向け、何を大切に、何を中心に置いて話し合いをするかで、具体的な行動も変わります。

「働く場」チームは「中学生がつくるお仕事図鑑！」、「集まる場」チームは「みんなであつくる町なか交流館」となりました。いずれも立場（町内外、社会人 or 学生、興味関心のあるものの違いなど）や世代を超えた交流がポイントとなっているように見受けられます。

次回の「いちのへ SDGs mirai カフェ」では、今までの取り組みをまとめ、実施したいアクションを具体化し、一戸町に提案します。

次回開催について

いちのへ SDGs mirai カフェ Vol.5 ～やりたいことを広めよう！大プレゼン大会～

日時：令和5年11月19日（日）13時30分～16時30分

会場：一戸町地区センター2階 大会議室

テーマは一戸町の「働く場」「楽しむ場」「集まる場」。

Vol.3、Vol.4 で取り組んできた、テーマを深掘りしてまちの活性化や社会課題解決のアイデア出し。今回は取り組みたいことや一戸町へ伝えたいことについて発表します。